

## 道徳学習指導案

- 1 日時 平成 26 年 2 月 14 日 (金)
- 2 場所 県庁講堂
- 3 学年・学級 第 1 学年 3 組
- 4 主題名 良心の目覚め 3-(3)
- 5 ねらい

家を出た後の主人公の行動について考えることを通して、内なる良心の声を自覚し、自分を奮い立たせることで、目指す生き方に近づこうとする心情を育てる。

- 6 資料名 銀色のシャープペンシル
- 7 主題設定の理由

### (1) 主題観

人間は決して完全なものではなく、弱さをもった生き物である。そのため、時として様々な誘惑に負けて、安易な方向や自分の都合のいい方に流されることもある。しかし、そんなとき、自分の中にある良心に問い直し、悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながらその呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になりうるのである。中学生のこの時期に、自分を奮い立たせ、内なる自分に恥じない、誇りある生き方を見出すことについて考えさせたいと思い、本主題を設定した。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は、学習に前向きに取り組める生徒がほとんどである。しかし、道徳の授業では、自分の考えを全体で発表することに抵抗を感じている生徒が多く、互いの考えを出し合い、そこから深め合うところまでにはなかなか至らない。また、長文を読むこと自体に抵抗感をもち、授業に主体的に参加できにくい生徒も何人かおり、資料の内容を理解したり、それをもとに考えたりすることができにくい状況がある。

学校生活においては、教員や友達から注意を受けても素直に反省することができず、ひとりよがりの考えに陥ったり、自分の非を認められずに言い逃れをしたりするなど、自分を正当化する場面がよく見られる。弱い自分に負けないで、内なる良心に問いながら、何が本当に大切かを考え、行動できるようになってほしい。

### (3) 資料観

本資料は、拾ったシャープペンシルを自分の物とうそをついたことから、自分を正当化するためにうそを重ねていくことになった主人公が、友人の卓也の電話をきっかけに、自分の弱い心に気付き、それを乗り越えようとする話である。最初は自分を正当化し、自分の非を素直に認められなかった主人公が、シャープペンシルの持ち主である卓也の謝罪を受けて、気持ちが変わっていく様子から、本主題について考えさせていくことができる資料である。

### (4) 指導観

指導に当たっては、場面の状況をしっかりと把握させ、主人公の気持ちについて考えさせるようにする。まず、自分を守るためのうそをつき、それを隠すためにうそを重ねてしまう人間の弱い部分に共感させ、こうした気持ちは誰にでもあることに気付かせる。さらに、卓也の電話を受けて、謝りに行くか黙っているかで心が揺れ動いた後に、主人公がとった行動について想像し、考えさせることで、自分の良心に恥じない、人間としてよりよく生きることの大切さについて考えさせていきたい。その際、個人で考えをもたせるだけでは全体への発表につながらないため、まずはグループで意見を交流し、グループの考えをホワイトボードにまとめた上で発表させ、その後、全体で考えていくようにする。

また、資料の状況を理解できるように、資料を 2 つに分けて提示することとし、最初に前半を提示してねらいとする道徳的価値についてじっくりと考えられるようにする。

8 準備物 ワークシート, 掲示物

9 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 (○)・評価 (☆)
導 入	○ 自分だったらどうするか予想する。	○廊下にシャープペンシルが落ちていました。あなただったらどうしますか。 ・落とし物として先生に届ける ・そのままにする ・周りの人に声をかけて聞いてみる ・自分で使う	○身近にありそうな場面を想像させ、資料の内容へ興味をもたせる。
展 開	○ 資料の前半 (P.2 16行目まで) を読んで考える。	○誰が出てきましたか。 ・ぼく ・卓也 ・健二 ○拾ったシャープペンシルなのに、「ぼく」はどうして自分が買ったと言っただろう。 ・とっさに言ってしまった ・実際に自分で使おうとしているのをみんなに見られたから ・盗んだと思われなくなかったから ○卓也のロッカーへペンを返しながらか、「ぼく」はどんなことを考えていたのだろう。 ・返したからいいだろう ・早くこの話を終わらせたい ・これで自分が盗ったと思われなくてすむ ○卓也からの電話を切って、家を出た。「ぼく」は、この後どうしたと思いますか。 ①卓也の家に直接謝りに行く ・直接謝る方が、誠意が伝わるから ・卓也は自分を信じてくれていたのに黙っているのは申し訳ないから ・隠している自分が許せなくなったから ②家に帰って電話をかけて謝る ・合わせる顔がないから ・直接は言いにくいから ・卓也が電話で謝ってくれたから ③そのまま家に帰って何もしない ・言うど、めんどくさいことになりそうだから ・謝る勇気がないから ・今さら言って、逆に責められるのが怖いから ・けんかになるのがいやだから	○時間をかけないように、簡単に状況を整理する。  ○こんな「ぼく」のことをどう思うかと問うことで、誰にでもそんな気持ちになることがあることに気付かせると共に、共感させる。  ○だまって返すことで、なかったことにしたいと考えている「ぼく」の気持ちに気付かせる。  ○どうしてそうすると思ったのかその理由もあわせて考えさせる。【自己決定】 ○ワークシートに自分の考えを書かせてから、班で交流する。【共感的人間関係】 ○出された考えの中から、班の中で1番いい行動の仕方と思われるものとその理由を選んでホワイトボードに書かせ、黒板に提示させる。【自己存在感】  ☆人間には弱い心もあるが、それを乗り越えていこうとする気持ちをもつことの大切さに気付くことができたか。  ○全体で、班で出た意見を交流した後に、資料の後半を範読し、「ぼく」の取った行動について知らせる。
終 末	○ 今日の学習を振り返る。	○今日の学習で、大切だと思ったことや、考えたことを書きましょう。 ・間違ったことをしたら、正直に謝る ・謝るのは勇気がいるし、難しい	